

EUSI メールマガジン Vol. 046

「ヨーロッパ化」と新たなく界>への接近--EU 研究における社会学」(伊藤るり)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 031】

「ヨーロッパ化」と新たなく界>への接近--EU 研究における社会学」
伊藤るり (一橋大学大学院社会学研究科教授、EUSI 元執行委員)

EU 研究において社会学は、「研究の対象を変えると同時に、ヨーロッパ化についても、従来とは異なった理解を提供することになる」--こう述べるのは、*Sociology of the European Union* (2011)の編者、A.ファヴェルとV.ギロドンである(Favell, Guiraudon, eds. 2011:3)。

EU 研究を牽引してきたのは、国際関係論、国際政治学、国際機構論、国際法といった学問領域だが、そこに社会学はどのような新しい視点をもたらしているのか。「研究の対象を変える」とはどのような意味か。「ヨーロッパ化」に関する「異なった理解」とはどのようなものか。

同書によれば、従来の研究はEUの制度、政策、主体を対象としてきたが、EUの社会学はそうした制度、政策、主体を所与のものとして研究するというよりは、むしろ地域統合を通じて、それらが、またヨーロッパ諸社会が、どの程度「ヨーロッパ化」したかを捉えていく。

「ヨーロッパ化」という概念については諸説あるが、一般的には、これまで加盟国の権限下にあった農漁業政策、環境政策、社会政策、科学技術政策といった個別政策領域が徐々にEUの権限下に入り、共通化するという意味で用いられてきた。

これに対して、EUの社会学はその意味を拡張し、制度、政策、主体、あるいはまた、ヨーロッパ諸社会にどの程度、ヨーロッパ固有の力学や構造が出現しているかに注意を向けるという。

たとえば、階級構造でいえば、はたして各国の階級構造を超えるような、ヨーロッパ独自の階級構造が見いだせるかどうか。高学歴層加盟国市民のヨーロッパ・レベルでの地理的移動と社会移動のパターンをエスノグラフィの手法を用いて追ったファヴェルの著書、*Eurostars and Eurocities* (2008)は、そうした関心を反映した企てのひとつである。

同様の方向性は、共同研究「<下からの>ヨーロッパ統合のパイオニア--EU加盟国、及び非加盟国市民のモビリティとヨーロッパ・アイデンティティの出現(PIONEUR)」(1998-2002)にも認めることができ、このプロジェクトの題名が示唆するように、そこには「上からのヨーロッパ化」とは区別される「<下からのヨーロッパ化>」へ注目があがる。

EU の社会学の試みは・・・

・・・

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol31.pdf>

【EUSI イベントご案内】

1. EUSI 主催ハンガリー外務省欧州総局長講演会

「The 10 Years of Experience of Central European Countries in the EU」

(EU 加盟 10 年間の中欧諸国のあゆみ--ハンガリーの視点から)

講演者: オードール・バーリント氏 (ODOR Balint)

ハンガリー外務省欧州総局長 (European Director General, MOFA, Hungary)

日時: 2014年5月14日(水) 17:00-18:30

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 南校舎 7F 475 教室

言語: 英語

<http://eusi-politics.tumblr.com/post/84412324675/eu-10-2014-5-14>

http://eusi.jp/content_jp/outreach/seminar/eu_enlargement_10_hungary.html

2. EUSI 津田公開講座

「欧州議会選挙と極右・欧州懐疑主義」(仮)

日時: 2014年6月14日(土) 13:00-17:00

場所: 津田塾大学小平キャンパス

講師: 若松邦弘 (東京外国語大学教授)

古賀光生 (二松学舎大学専任講師)

中井遼 (立教大学助教)

3. EUSI 津田公開講座

「EU における移民政策・多文化主義」(仮)

日時: 2014年7月12日(土) 13:00-17:00

場所: 津田塾大学小平キャンパス

講師: 昔農英明 (津田塾大学・一橋大学講師)

清水謙 (東京大学大学院)

寺本めぐ美 (津田塾大学大学院)

討論: 浪岡新太郎 (明治学院大学准教授)

【EUSI からのお知らせ(イベント以外)】

1. EUSI スカラーシップ・インターンシップ 2014 (EUSI 加盟大学大学院生対象)

EUSI は、EU に関わる研究の遂行を目的に欧州へ渡航する大学院生を対象に奨学金を支給します。以下の募集要項に従い、奮って応募してください。

対象者: 一橋・慶應・津田塾の各大学院(課程修了者含む)で EU 研究を行う者
研修先機関:

- スカラーシップ: EU 加盟国内の大学・教育研究機関・EU 諸機関・補助機関等

- インターンシップ: EU 諸機関・補助機関優先、その他 EU 関連 NGO・企業も可

奨学金: 1人につき上限 52 万円 (渡航費と日当)

派遣期間: 2014 年 8 月 1 日-2015 年 7 月 31 日の間で研究に必要な期間

応募書類: 申請書、研究履歴、研究計画、研究日程表、推薦状、支出計画書

募集期間: 2014 年 5 月 8 日(木)-6 月 20 日(金)

選考機関: 2014 年 6 月 23 日(金)-6 月 27 日(金)。面接の日時は事前に本人に通知

選考結果: 2014 年 7 月 1 日(火)発表

EUSI スカラーシップについてはこちら

http://eusi.jp/content_jp/education/scholarship/

EUSI インターンシップについてはこちら

http://eusi.jp/content_jp/education/internship/

2. EUSI では関連するプログラムとして以下の HP でも情報を発信しています。

併せてご活用ください

一橋大学大学院 EU 研究共同プログラム

Website: <http://www.law.hit-u.ac.jp/graduate/eu/>

Blog: <http://eublog.law.hit-u.ac.jp/>

EUSI 政治プロジェクト

Website: <http://eusi-politics.tumblr.com/>

Twitter: [@eusipol](https://twitter.com/eusipol)

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

網谷龍介、伊藤武、成廣孝編『ヨーロッパのデモクラシー』改訂第 2 版(ナカニシヤ出版、2014 年 4 月刊行)

- 網谷龍介 (EUSI 執行委員、津田塾大学学芸学部教授)

「第 1 章 ヨーロッパ型デモクラシーの特徴」

<http://www.nakanishiya.co.jp/modules/myalbum/photo.php?lid=1017&cid=14>

遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』増補版(名古屋大学出版会、2014 年 4 月 18 日刊行)

- 細谷雄一 (EUSI 執行委員、慶應義塾大学法学部教授)

「第 4 章 シューマン・プランからローマ条約へ 1950-58 年 EC-NATO-CE 体制の成立」

<http://www.unp.or.jp/ISBN/ISBN978-4-8158-0767-2.html>

田中俊郎 (EUSI 理事、慶應義塾大学名誉教授、ジャン・モネ・チェア)

「欧州議会選挙について教えてください」

駐日欧州連合代表部『EU MAG』2014 年 4 月 23 日

<http://eumag.jp/question/f0414/>

植田隆子、小川英治、柏倉康夫編『新 EU 論』(信山社、2014 年 5 月 5 日刊行)

- 中西優美子 (EUSI 執行委員、一橋大学大学院法学研究科教授)

「第 2 章 機構と政策の仕組み」

「第 3 章 EU の法制度」「第 4 章 EU の司法制度」

- 小川英治 (EUSI 理事長、一橋大学副学長、一橋大学大学院商学研究科教授)

「第 5 章 経済統合への道、統合にかかわる政策」

「第 6 章 通貨統合」「第 7 章 経済通貨統合の現実」

- 木村崇之 (EUSI 顧問、元駐欧州連合日本政府代表部大使)

「第 14 章 I 日欧関係の発展」

http://www.hit-u.ac.jp/academic/book/2014/140501_10.html
<http://www.shinzansha.co.jp/140418shin-euron-contents.html>

中西優美子 (EUSI 執行委員、一橋大学大学院法学研究科教授)
 「EU 法優位の原則と国内過渡的措置」【EU 法における先決裁定手続に関する研究(5)】『自治研究』第 90 巻第 5 号(2014 年 5 月) 76-87 頁

【EU に関するニュース】

- 2014 年 4 月 15 日 欧州議会、2017 年より従業員 500 名以上の上場企業は環境・社会・ガバナンス情報公開義務化
- 2014 年 4 月 16 日 EU、マラウイ大統領・議会・地方議会選挙監視団(EOM)を派遣。2004 年・09 年に続き 3 度目
- 2014 年 4 月 17 日 EU・米・ロ・ウクライナ 4 者会合、武装占領勢力の退去は不訴追、OSCE の監視・支援等で合意
- 2014 年 4 月 17 日 バローゾ委員長、プーチンに天然ガス供給や情勢安定に関しウクライナとの協議促す書簡送付
- 2014 年 4 月 17 日 欧州議会、ロシアのウクライナ迂回のガスパイプライン敷設反対と代替ガス供給源模索の決議
- 2014 年 4 月 17 日 欧州議会、北朝鮮・パキスタン・シリアの人権や宗教不寛容などに関する 3 つの決議を採択
- 2014 年 4 月 17 日 欧州自動車工業会(ACEA)、3 月新車販売台数は EU28 カ国で 144 万 9148 台、前年同月比 10.6%増
- 2014 年 4 月 17 日 欧州鉄鋼連盟、2014 年 EU 域内の鋼材需要見通しは 1.46 億トン、前年比 3.4%増で 3 年ぶりに増加
- 2014 年 4 月 18 日 日・EU EPA 交渉、関税撤廃品目案は全品目のうち日本側が 88%・EU 側が 92%を提示と時事報道
- 2014 年 4 月 21 日 財務省、2013 年度貿易統計(速報・通関ベース)は、日・EU 間で 7192 億円の貿易赤字と過去最大
- 2014 年 4 月 21 日 JETRO、EU のエネルギー価格と費用に関する分析と勧告を発表
- 2014 年 4 月 22 日 アシュトン EU 上級代表、シリア政府の大統領選日程発表に対し遺憾と和平協議参加求める声明
- 2014 年 4 月 22 日 アシュトン EU 上級代表、ベラルーシでの死刑執行に対し強い非難と死刑廃止求める声明
- 2014 年 4 月 22 日 ヨーロッパハウスにて文学の夕べ開催。主催団体会長のヴァリエ駐日スウェーデン大使ら挨拶
- 2014 年 4 月 23 日 Eurostat、2013 年財政赤字はユーロ圏 18 カ国で対 GDP 比 3.0%、EU28 カ国で同 3.3%と前年比改善
- 2014 年 4 月 24 日 欧州委員会、第 2 次バローゾ委員会成果報告書「A United, Open and Stronger Europe」発表
- 2014 年 4 月 24 日 アシュトン EU 上級代表、ウクライナ東部における誘拐・拷問・殺人等の事件を憂慮する声明
- 2014 年 4 月 25 日 EU 及び先進 7 カ国首脳、ウクライナに関する声明。対ロ追加制裁や 5 月 25 日大統領選実施支持
- 2014 年 4 月 25 日 欧州委員会、対ギリシャ第 2 次経済調整計画第 4 回報告書発表。同国財政状況依然不安定を強調
- 2014 年 4 月 27 日 アシュトン EU 上級代表、イスラエル・パレスチナ中東和平交渉の期限が迫り事態憂慮の声明
- 2014 年 4 月 27 日 EU 加盟 5 カ国(英仏独蘭瑞)、LGBT の人権尊重のための東京レインボープライド 2014 に参加
- 2014 年 4 月 28 日 EU 理事会、新たに 15 名を渡航禁止・域内資産凍結など、対ロシア制裁措置拡大。合計 48 名に
- 2014 年 4 月 28 日 欧州委員会、スロバキアからウクライナへの天然ガス供給覚書や枠組連結協定締結を歓迎
- 2014 年 4 月 28 日 欧州委員会・ECB、2013 年度欧州金融安定化・統合、2014 年度欧州金融統合に関する報告発表
- 2014 年 4 月 28 日 欧州委員会、労働条件に関する会議。健康と安全、リストラ管理、域外の労働状況など 5 分野

- 2014年4月29日 欧州委員会、3億6500万ユーロの対ウクライナ特別支援策採択。政権移行及び市民社会支援で
- 2014年4月29日 EU、エジプト・ミニア県裁判所の529名への死刑勧告及び683名への同勧告追加に反対の声明
- 2014年4月29日 欧州委員会、クラレのデュポン社ガラスラミネート・ビニルアセテート事業買収を条件付承認
- 2014年4月29-30日 欧州経済社会評議会、「欧州のための行動計画」や建設業界でのサービス指令などを報告
- 2014年4月29-5月8日 安倍首相、欧州訪問。独・英・ポルトガル・スペイン・仏・ベルギー及びEUで首脳会談
- 2014年4月29-5月8日 岸田外相、欧州・アフリカ訪問。欧州ではデンマーク及びOECD閣僚会議出席
- 2014年4月30日 日・EU外相電話会談、ウクライナ情勢やイラン核開発問題に関して意見交換
- 2014年4月30日 アシュトン EU上級代表、前日台湾での5名の死刑執行に対して遺憾及び死刑廃止を求める声明
- 2014年4月30日 アシュトン EU上級代表、モルディブで1953年以来停止されてきた死刑の再導入に憂慮の声明
- 2014年4月30日 Eurostat、4月ユーロ圏消費者物価上昇率(速報値)は前年同月比0.7%と、予想下回る

【編集後記】

今回の巻頭エッセイは、EUの社会学という立場から、伊藤るり一橋大学社会学研究科教授に執筆していただきました。

<界>という概念をキーワードに、<上からのヨーロッパ>と<下からのヨーロッパ>を論じた興味深い内容となっています。今月の22-25日に予定されている欧州議会選挙においても、反EU、反移民などを標榜する政党がどこまで票を伸ばすかが注目されていますが、少し視点を変えてこの問題を考える上でも示唆に富むものと思います。

EUSIの活動領域の中心は法律、政治、経済の3分野ですが、巨大で多様なEUの姿をより深く理解するためにも、多彩な執筆者によるエッセイを掲載していきたいと考えています。

(藤川哲史・EUSI・一橋大学・EUSIメールマガジン編集担当)

安倍首相の10日間の欧州訪問を振り返ると、色々と成果と課題が見えてくる感じがいたします。

今回の欧州歴訪の成果としては、経済問題、安全保障協力、女性の社会進出、文化交流、ウクライナ問題をめぐるG7協力でしょうか。特に経済と安全保障に関しては、経済ではアベノミクスや日本への投資促進、日・EU EPA交渉など、そして安全保障協力では積極的平和主義や武器輸出管理、2+2(日仏間実施済み・日英間開催へ)、第一次政権に続くNATO演説など、いくつか重要な足跡を残したことは評価すべき点かと思えます。

他方で、課題として残された問題としては、成果と同じく経済と安全保障問題、そして中国との問題が挙げられると思います。特に、経済に関しては法人税引下げ、安全保障問題では集団的自衛権の行使という、まだ実現に至っていない様々なハードルのある問題を、これらの前提含みの発信をするという意味で独断に基づく踏み込んだ発言が多かったように感じられます。国内的なコンセンサス形成の見通しも未だ立っていない中で、外遊先からそのような報道が入ってくることで、国内の民意形成の点からは相当問題を含んでいるように思えます。このことは首相個人のリーダーシップを強調するあまりの彼自身のスタイルがよく現れていると思います。これは原子力協力に関する点でも同様です。

また経済問題で、アベノミクスに対する理解と支持を得たという成果を強調

していますが、これについては少し距離を取りつつ冷静に受け止めた方が賢明
と思います。特に、成長戦略・財政健全化・為替問題などについては、今後の
首相の手腕にかかってくる問題であり、欧州側としては反対はしないが様子見
というところが実態ではないかと感じます。

また今回の訪欧で、力による国際環境の変更に対して法による秩序を強調して
いることは、ウクライナ問題におけるロシアだけではなく、言外に中国を意識
していることが明らかに読み取れました。それがよく現れているのが NATO 演説で、
同様に欧州諸国にとっても東アジア地域の安定化は重要な関心事である以上、
中国を必要以上に刺激することは日中間の関係改善のハードルを自ら高める
ことに繋がってきます。歴史や領土問題などをめぐって日中が欧州で"場外戦"
を展開する関係ではなく、責任ある日中関係の構築に向けて、今後首相に求め
られてくる役どころはますます大きくなったと思います。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp
